

家の光ご担当者様、営農・農政ご担当者様

日ごろより、本会事業にお取り組みいただき、まことにありがとうございます。  
『地上』2022年3月号企画のご案内を送付させていただきます。ぜひとも普及活用いただきますようお願い申し上げます。



## 3月号の ご案内

JA青年組織、  
JA役職員の学習研修会に  
『地上』の活用を！

定価（税込）普通月号 618円  
付録月号 680円  
（4・11月号）



### 特集①

## 地域における可能性 農泊AtoZ

農林水産省から「農泊」の推進が打ち出されたのは、2016年のこと。2020年にはJA全農、(株)農協観光、農林中央金庫、(一社)日本ファームステイ協会が「農泊事業実践協定」を締結し、重点策の一つとして、地域の空き家を宿泊施設として利活用するという計画を進めるなど、JAグループでも力を入れています。これまでの農泊は、農家民泊などのように個別経営をイメージしますが、これからの農泊は地域全体で宿泊+食+体験を提供することが重視されています。

しかし、新型コロナの影響で旅行そのものが停滞しています。一方で、都会の密を避け、地方に目を向ける人たちが増え、「ワーケーション」といったライフスタイルも広がりつつあります。そこで、ウィズコロナ、アフターコロナ時代を見すえ、「農泊」の可能性について考えます。

## 現場発！ 盟You伝 JA山口県山口青壮年部 嘉川支部



半世紀を超えて、地域の神社に掛かるしめ縄作りに取り組む盟友たちがいます。高齢化や宅地化などで、姿を変えつつある地域で伝え続けているのは、技だけではありません。地域の伝統ときずなを守りたいという思いでした。

○編集内容に関するお問い合わせは地上編集部へ

Tel 03-3266-9002 Fax 03-3266-9047

E-mail [chi.jo.goodearth@mx1.alpha-web.ne.jp](mailto:chi.jo.goodearth@mx1.alpha-web.ne.jp)

○普及に関するお問い合わせは普及企画部へ

Tel 03-3266-9035 Fax 03-3266-9049

E-mail [fukyu02@ienohikari.or.jp](mailto:fukyu02@ienohikari.or.jp)

1月20日(木)までに  
JAの「家の光」担当部署に  
お申込みください



令和3年度

『地上』への青年部活動掲載促進運動  
ならびに学習・活用強化運動

実施中



特集②

## 農畜産物輸出のあり方を考える

2030年までに農林水産物・食品の輸出額を5兆円にする——現在政府が掲げている目標です。外国での日本食ブームなどもあり、輸出額は順調に推移。新型コロナの世界的感染拡大もあって一時は鈍化したものの、巣ごもり需要により伸びています。それでも2020年の実績は9860億円、21年1～11月までで1兆779億円となり、初めて1兆円を超えました。政府は、“農業の成長化には輸出が重要”というスタンスで力を入れています。輸出の振興が、農家の所得増大や産地の基盤強化につながらなければ意味がありません。

この特集では、JAグループの輸出に関する取り組みをはじめ、そもそも農畜産物の輸出にたいする国の考え方や実際にどの国にどんな農畜産物を輸出しているのかなどの動向、さらには農家や産地がどのようにして輸出に関われるのか、そこにはどんな課題があるのかなど、日本の農畜産物輸出がどうあるべきなのかを考えます。

## 月イチ！『地上』ウェビナーも開催中！！

連載企画の筆者を招き、誌面をテキストにウェブ会議サービス「Zoom」を利用して、講義や意見交換を行います。テキストとなる企画は、「佐川友彦の農業経営プチ改善」と「小林国一の協同組合LABO」です。

農業経営やJA青年組織活動などに役立てませんか？  
開催日時は『地上』とフェイスブックでご案内します。

「GOOD EARTH COLLEGE」と題したオンラインの  
公開講座も月に一度開催中！ぜひご参加ください！

農業・地域・JAを担うリーダーの雑誌

地上 facebook

詳しくはコチラ



参加費無料

定員50人  
(キーワード  
入力者優先)



# 学びが人・組織を強くする

「地上」がその一翼を担います!

- パターンA** 個人学習に加え、アーリーワークという機会を活用し、仲間の考えも共有しているため、一人で学習するよりも、高い学習効果があるでしょう。
- パターンB** 別の価値観を持つ人とふれあう機会までは作れていませんが、地域のみなさんと課題を共有して、未来に向かうための学習方法になっています。
- パターンC** さらに「地上」が提供する学習の場のフル活用です。個人での学習と集団での学習、さらには別の価値観を持つ人との学習ができるため、一人の農業者として最強の学習方法です。
- パターンD** 青年組織に属していない人や、青年組織で学習の機会がない人には最適な学習方法です。もし、青年組織に所属していて、このパターンになる人は、学習の機会創出のために、青年組織に働きかけましょう。地域の仲間との学習は、とても大切です。



GOOD EARTH

## 学習活動の勧め

### 「地上」を活用した継続的な学習のイメージ

「地上」が書く  
スタート

#### 1 個人で

##### インプットする

届いた「地上」を手に、時々々の農業・農政、地域、JAを取り巻く課題やJA青年組織の優良事例を「読んで学ぶ」。さらに「さくっと話し合おう」の問いを自分自身で考えてみましょう

「さくっと・じっくり話し合おう」は、毎号96ページの目次の下欄に一覧があります



【さくっとあつちあつち】今月号は17, 25, 29, 37, 45, 51, 59ページに記事があります



POINT

「さくっと話し合おう」は、毎号96ページの目次の下欄に一覧があります

「じっくり話し合おう」は、毎号96ページの目次の下欄に一覧があります

パターンA, B, C

会場の  
冒頭に

#### 2 仲間と共に

##### アーリーワークする

JA青年組織の単位組織や支部の単位、近くの仲間などと共に、1で興味を持ったテーマや課題について自分が思っていることを発言し、みんなの考えを聞き、共有しましょう。「取扱説明書」(96ページ)の準備編・初級編が参考になります。自分の思いを言葉に置き換えることができます



学習会・研修会で  
じっくり話し合おうとは

パターン  
B, C

パターンC, D

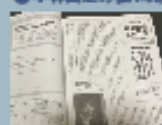
#### 4 個人で 仲間と共に

##### ウェビナーに参加する

仲間同士の話し合いもたいせつですが、違う地域・違う作目の農家や別の職業、幅広い世代が集まる「月イチ」「地上」ウェビナーなどのオンライン学習会に参加すると、「地上」に書かれていることを超えた、新たな気づきやさまざまな情報を得られます

パターンD

##### ●小林園之の協同組合LABO



記事と  
テキストに  
➡➡➡  
毎日ウェビナー  
を開催



●事業継続24時  
みんなで世代交代の働きしょう  
も不定期で開催します!

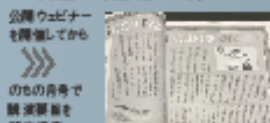
##### ●佐川友彦の農業経営プチ改善



記事と  
テキストに  
➡➡➡  
毎日ウェビナー  
を開催



##### ●GOOD EARTH COLLEGE (テーマ、講師は毎月変わります)



公開ウェビナー  
を開催してから  
➡➡➡  
のこの月号で  
解決策を  
記事掲載

パターンB

#### 3 仲間と共に

##### グループワークをする

2で出てきた課題や疑問を解決させるため、議論を深める場がグループワークです。「取扱説明書」の中級編や「別冊付録」のワークシートを活用して、手順に沿って話し合ってみましょう。話し合いのタネは、「じっくり話し合おう」から選びましょう!



さらに知識を深めたい、  
新しいことを知りたい、  
気づきを得たい……  
という人は



「地上」11月号別冊付録は、農業・農政に関わる10のキーワードから課題と解決策を考えることができるシート付き



「地上」は2022年5月号で創刊75周年を迎えます。よりニーズを捉えた雑誌作り、企画作りのため、読者アンケートを募集しています。ご協力いただいた方の中から抽選で50人に1,000円分の図書カードを差しあげます。10月1日から2022年3月31日まで受け付けます。詳細は、11~4月号の35ページをご覧ください。

